

第37回 大書心会ペン字展出品要項

主催 一般財団法人 書道教育 大書心会
後援 土岐市 多治見市 土岐市教育委員会 中日新聞社

一、会期 令和八年十月九日（金）～十月十一日（日）

午前九時～午後五時まで 入場無料

（十月九日は午後一時から 十一日は午後四時まで）

一、会場 セラトピア土岐

〒509-1512 土岐市土岐津町高山四番地

一、出品資格 高校生以上

一、出品区分

・一科審査会員・二科審査会員（師範）・無鑑査（教範）
・一科（書範～準四段）・二科（三段～準初段）
・三科（1級～新人）

特別出品（前記を除く支局長・支部長。無審査とする）

○出品区分については、大書心誌九月号現在の規定・かなの段級のうち、上位の方を基準にして決定する。

○本会の硬筆部に出品していない場合は、所属団体での資格を明記の上、相当する区分に出品のこと。

一、用具

つけペン・万年筆・ボールペン・フェルトペン・竹ペン
その他硬筆と認められるもの（筆ペンは除く）

一、作品寸法

○一科審査会員・特別出品・無鑑査・一科・二科・三科
六〇cm×七〇cm以内（縦横自由）

○二科審査会員

七五cm×一〇〇cm以内（縦横自由）

※いずれのサイズも作品の表装仕上がり（額）の寸法です。

※規定寸法を超えた作品は審査できません。ご注意ください。

一、作品内容

一、出品料 創作、臨書、実用書等自由

一科審査会員：五、五〇〇円

二科審査会員：四、五〇〇円 一科：三、五〇〇円

特別出品：四、五〇〇円 二科：三、〇〇〇円

無鑑査：四、〇〇〇円 三科：二、八〇〇円

一、出品申込

出品申込書に必要事項を記入の上、八月二十七日（木）までに出品料を添えて本部事務局に申し込むこと。

※出品申込書は、予め各支局・支部に送付する。個人会員は本部事務局まで請求のこと。

一、搬入

（A）展覧会場へ直接搬入する場合（表装済作品）

令和八年十月八日（木）午前九時半～十時半

※可能な方は、直接搬入（時間厳守）にご協力下さい。

（B）本部へ送付（持込み）する場合（表装済作品）

令和八年九月二十九日（火）必着

〒509-1514 岐阜県土岐市泉島田町一―三〇

書道教育 大書心会

一、送り先 令和八年十月八日（木）午前十時半から

一、審査員 一科審査会員（本年度審査員を委嘱）

一、褒賞 一科審査会員～三科について、各区分別に審査し、優秀作品に次の特別賞を授与するほか、出品者全員に賞状・賞品を授与する。

大賞・準大賞・会長賞・※土岐市長賞※多治見市長賞・※土岐市教育長賞※土岐市議会議長賞・※中日新聞社賞・大書心会賞・理事長賞・師範会賞・入選（※は申請中）

令和八年十月十一日（日）

○作品鑑賞会 午後一時から

○授賞式 午後三時から

○搬出 午後四時から

※搬出不可能の方には、後日、返送料代引きにて送付する。

作品はすべて未発表のものに限る。

○一人何点出品してもよいが、入賞は一人一点とする。

○上位入賞者の昇段級については別に定める。

○級位の出品者には、一階級進級を認める。

○審査結果等に関するお問い合わせは一切お答えできません。

一、その他

◆著作権について 詩文や歌詞などは著作権で守られています。

漢詩・歌詞・詩ほか文芸作品などを題材に作品制作をされる場合は、著作権の有無を必ず確認して下さい。通常、著作権は作家の死後七十年間保護されます。著作権保護中の作品から引用するためには、許諾（場合によっては課金）を得なければなりません。著作権が存続している著作物を題材とされる場合は必ず個人の責任において許諾を得て下さい。

◆個人情報の取扱・注意事項

●出品票に記載いただく個人情報、ホームページ・入賞作品名簿・作品展示など本展覧会開催のみ使用し、それ以外の目的では使用いたしません。

●作品（額も含む）の取扱いは、細心の注意を払いますが、不可抗力、不測の事態による作品の損傷などにおきましては、その責を負いません。

●応募作品の著作権は応募者にありますが、使用権は大書心会が有し、各種印刷物など多目的に使用することを承諾するものとします。

ペン字展作品内容に関するルールについて

本会ペン字展は、ペン字専門の展覧会としては規模、内容ともに全国レベルであるとの高い評価をいただいておりますが、一方で、いわゆる白ヌキ文字で書いた作品や古典臨書作品が、毎年上位入賞する傾向が強いのではないかとご指摘も、以前からありました。

確かに白ヌキ文字は、広告等で「強調」する場合によく使われる技法であり、人の目をより引きつける効果があります。審査でもいくらか有利であることは否めません。また人気の高い古典・古筆の臨書は同じパターンになりやすく、形骸化につながってしまいます。

そこで、こうしたマンネリ化を防ぐためにも、第二十八回大会から作品内容に関して左記のような一部制限を設けました。該当する方には直接ご連絡しておりますが、この趣旨を広くご理解いただきたくご案内申し上げます。

記

- 1、黒や紺などの濃色の紙に、白・金・銀などの淡色の文字で書いた作品
- 2、古典臨書作品（漢字・かな共）

各クラス別で、右記の1または2の作品が上位三位迄に入賞した場合、次回以降、同様の作品を出品しても上位三位迄には入賞しない。

※ただしクラスが変わった場合は、この限りではない。

つまり、いわゆる白ヌキ文字で上位入賞した方は次回からは、なるべく黒文字で出品していただきたい、同様に古典の臨書の場合は創作にチャレンジしていただきたいということです。上位入賞する力のある方には、同じ手法によらず新しい境地を開拓して、ペン字展全体を常に新鮮で魅力あるものへとリードしていただきたいと願うものです。

※出品区分が上位のクラスに昇格した場合は、このルールは一旦白紙となり、自由に出品できます。

ペン字展開催と作品の寸法について

“第37回ペン字展”は、10月9日（金）～11日（日）に開催されます。

本会のメイン行事として、一層充実した展覧会にしたいと存じます。皆様方のご支援、ご協力をいただきますよう宜しくお願いします。

また一昨年より、無鑑査（教範）と一科審査会員（無審査）の作品寸法は左記のとおり、変更となっておりますので、お間違いないようお願い申し上げます。

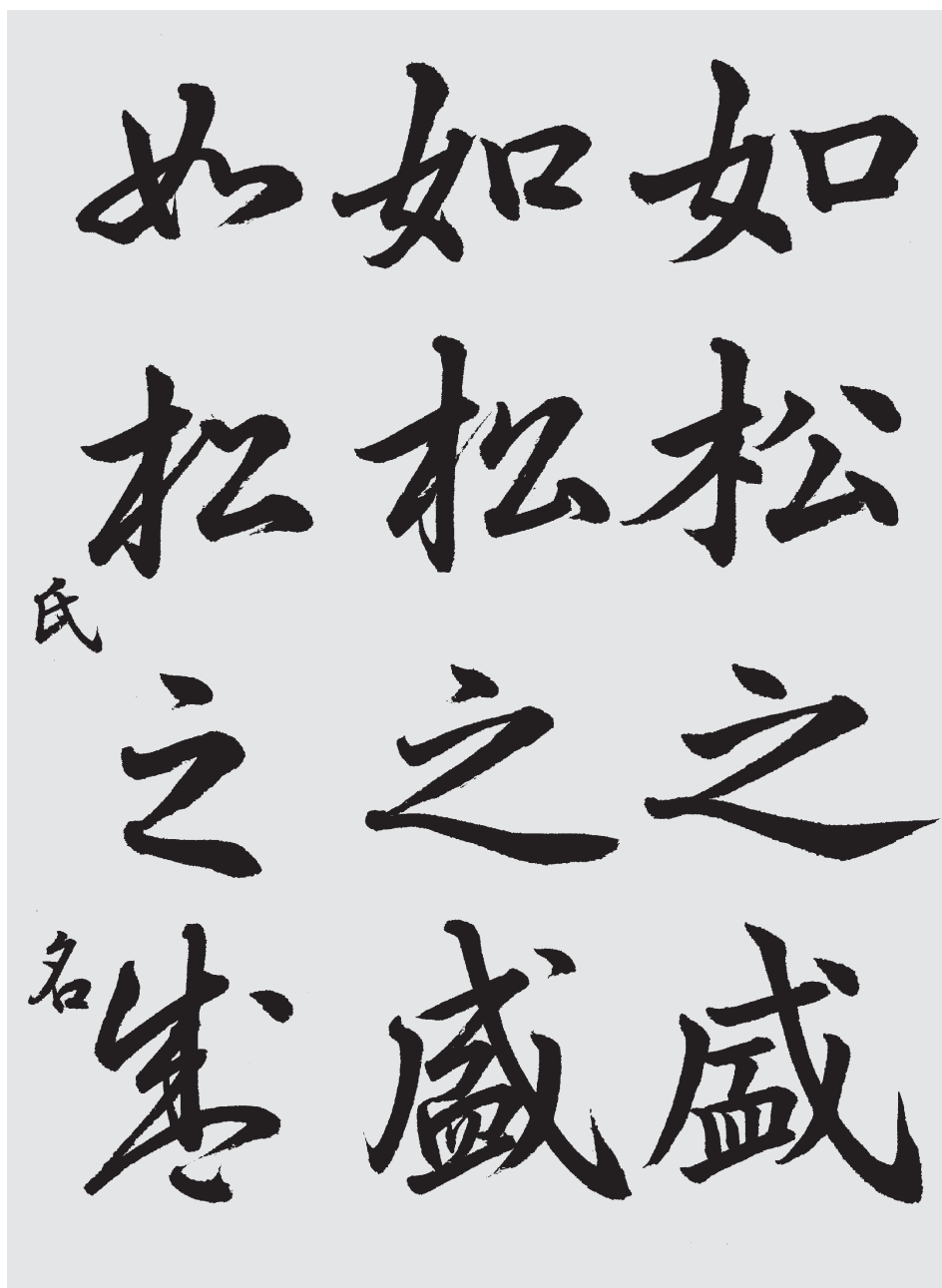
【作品のサイズ】

- | | |
|-------------|-------------------------|
| ☆一科審査会員 | 60 cm × 70 cm 以内（縦横自由） |
| ☆二科審査会員 | 75 cm × 100 cm 以内（縦横自由） |
| ☆無鑑査 | 60 cm × 70 cm 以内（縦横自由） |
| ☆一科（書範～準四段） | 60 cm × 70 cm 以内（縦横自由） |
| ☆二科（三段～準初段） | 60 cm × 70 cm 以内（縦横自由） |
| ☆三科（一級～新人） | 60 cm × 70 cm 以内（縦横自由） |

※いずれのサイズも作品の表装仕上がり（額）の寸法です。

三体千字文を書く (68)

締切り 八月二十日 (必着)



回作品の出し方

- ▼硬筆部ⅡB5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)
- ▼毛筆部Ⅱ半紙に書いて下さい。(筆ペン可)
- ▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬毛のどちらか一方に限ります。

- ▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。
- ▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

奥村憲照先生書

◆硬筆の専門誌だった大書心に一般毛筆部が設立されたのは、昭和五十六(一九八一)年四月のことです。

◆「三体千字文」課題からスタートし、憲照先生の穏健中正で気品のある手本が好評を博しました。

◆短期特別課題として、平成二十四年一月から二年間と平成二十八年の一年間学びましたが、今回はその続きです。

◆原点に返って、基本用筆と正しい崩し方をしっかり学びましょう。

〔千字文〕

四言古詩二五〇句、重複しない千字からなっており、聖徳・修養・修身・齊家等について述べられた習字手本であり、初學者の教科書でもあった。

梁の武帝(在位五〇二―五四九)の命を受け、周興嗣が王羲之の筆跡中からまとめたといわれる。

〔解説〕

似蘭斯馨

如松之盛

蘭の香りのように爽やかで、

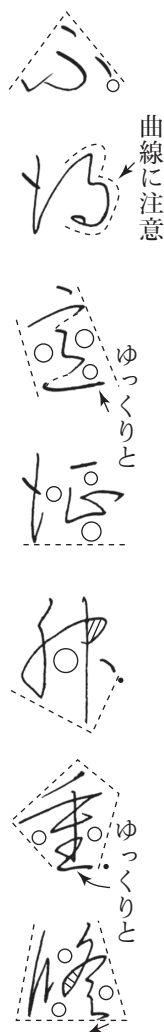
松の盛んに生い茂るように栄える。

準初段から六段まで

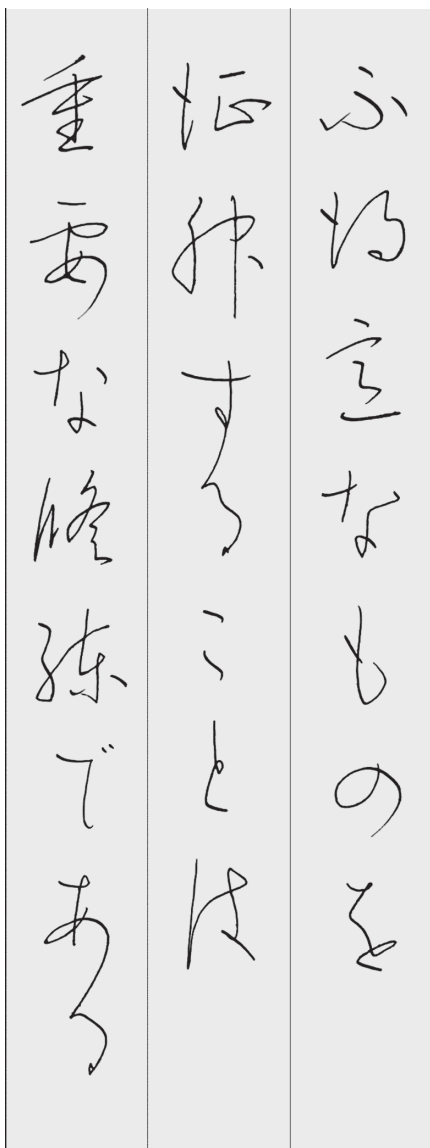
新入から1級まで

〔解説〕

〔読み〕不得意なものを 征服することは 重要な修練である



▶教範・書範は右課題を「行書」で、師範は「楷書」で出書して下さい。

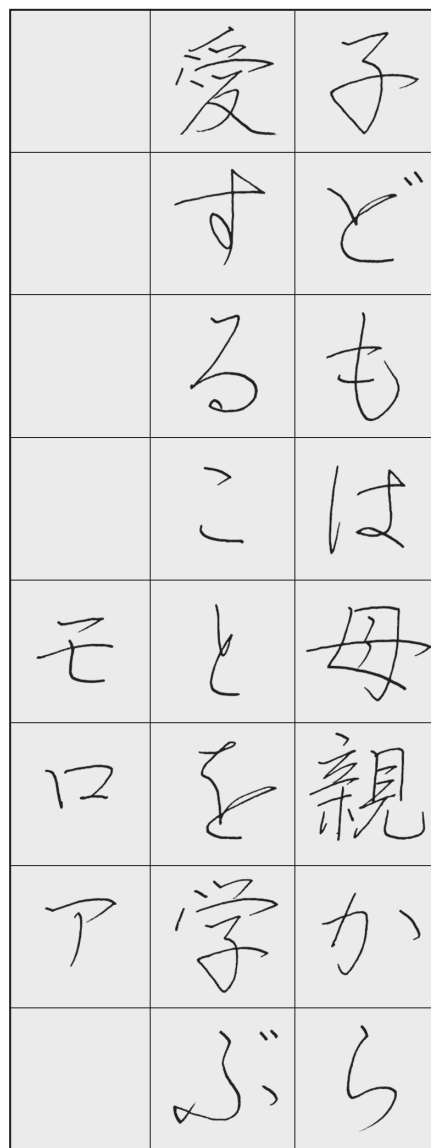
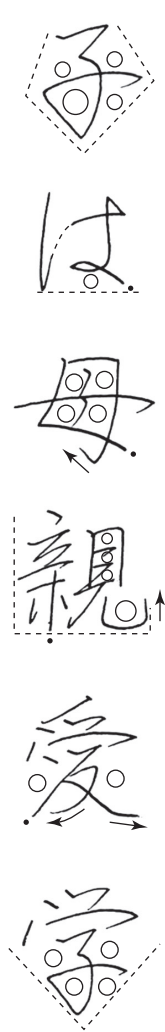


お 尾 郷 翠 光 書

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



ふ る た ずい えん
古 田 瑞 苑 書

▷用具＝自由(黒色に限る)

▷用紙＝本会級位用紙

◆9月課題予告(行書)

洒落は会話の
調味料であり
食物ではない

▼教範・書範Ⅱ楷書

▼師範Ⅱ行草または草書

★不得意：(書体Ⅱ行草または草書)
グラッドストーン(一八〇九～一八九八)
イギリスの名政治家
グラッドストーンは、数学が大きらい
で、いつも落第点しかとれず、父に、
数学のない学校があったら転校させて
ほしいと手紙を書いた。父は返事に
「不得意なものを征服することは、将
来出あうかもしれないより大きな困難
を征服する力を養うために、もっとも
重要な修練である」と言い、やってみ
ようと決意した彼は首相の印綬を帯び
るまでになった。

◆9月課題予告(楷書)

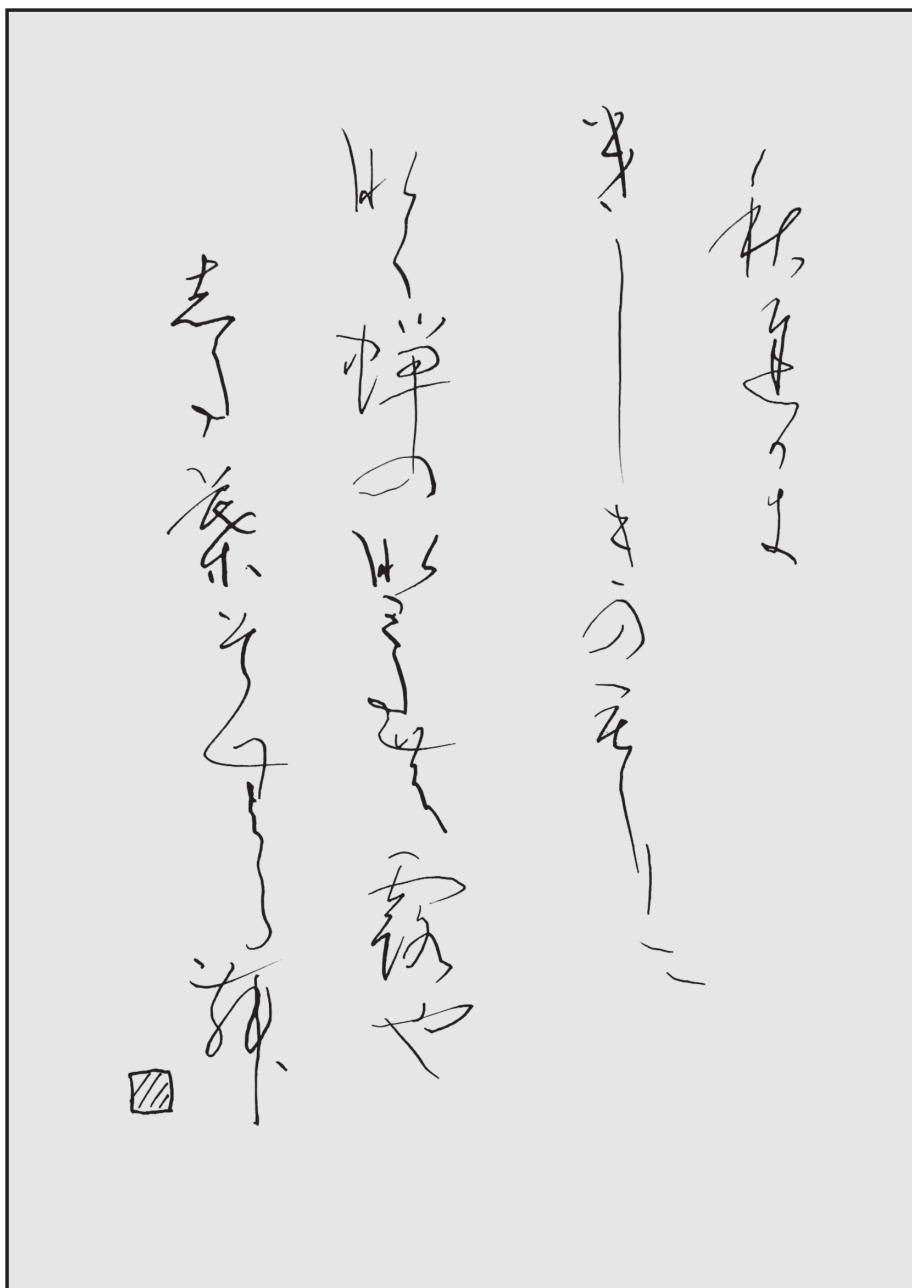
希望に生きる者は
つねに若い

三木 清

★子どもは：(書体Ⅱ行書)
アンドレ・モロア(一八八五～一九六七)
フランスの小説家
社会は、基本的には愛によって成り
立っているものであり、平和に社会生活
を営んでいけるのは、お互いに愛する
ことを知っているからである。その
「愛すること」を、子どものころから、
周囲の人々に愛されることによって学
ぶのであり、とくに大部分は、母親の
母性愛によって学ぶのである。

締切り 八月二十日（必着）

大迫秀湖書



秋近^{遅可支造}きけしきの杜^{毛り二那}に鳴く蟬の
涙^{那多農}の露や下葉^{志多}染む^{そ無舞}らむ

〔歌意〕 しのび寄る秋の気配のけしきの杜に鳴く
蟬。その紅涙が露となつて、早くも木々の
下葉を色づかせるのだろうか。
〔出典〕 新古今和歌集（新潮日本古典集成）

〔古筆参考〕

遅^遅 年 通 年 通

遣^遣 米 米 米 米

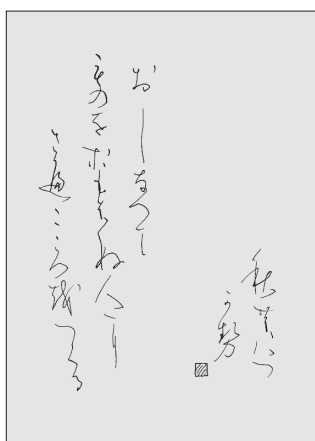
那^那 那 那 那 那

農^農 若 若 若 若

無^無 无 无 无 无

舞^舞 舞 舞 舞 舞

◆9月課題予告



おしなべてものを思はぬ人にさへ
心をつくる秋のはつかぜ

締切り 8月20日(必着)

日ざしもようやく和らいできたと思っておりますところに、またこの残暑のぶり返しです。この暑さを乗り越えて、実り多き秋を迎えられますよう、心よりお祈りいたしております。かしこ

- 作品の出し方
- 新入から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
 - 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
 - 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
 - 両課題とも、書体変換は自由です。

※手本はボールペン使用

日ざしもようやく和らいできたと思っておりますところに、またこの残暑のぶり返しです。この暑さを乗り越えて、実り多き秋を迎えられますよう、心よりお祈りいたしております。かしこ

横 書 き 課 題

おか じま けい せん 書
岡 嶋 桂 川

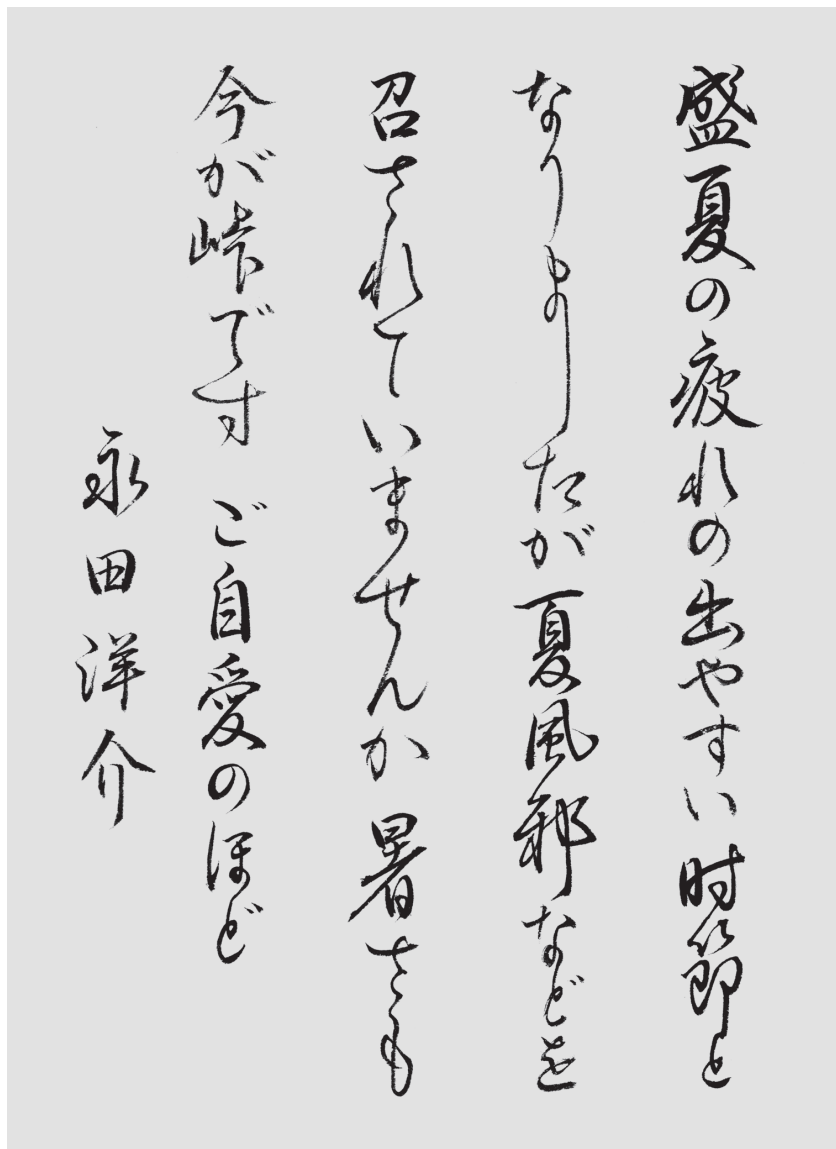
太平洋戦争末期、子供たちは学童疎開で農山村に移住させられた。

和歌山県紀の川市 氏 名

※手本はつけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題



締切り 八月二十日（必着） 半切（一二六cm×三五cm）

新井龍峰書

青引嫩苔留鳥篆

緑垂残葉帶蟲書

半紙（334mm×240mm）

書 香 梅 藤 伊

〔条幅解説〕

今月の課題は二行目に縦長の字形が多いために、落款が少し窮屈になってしまいました。さて雅印をどうしようかと思案の折、土岐市在住の〇〇先生から以前いただいた竹の根で作られた印材が目に入り、早速刻してエイヤー！と押印してみました。これは是非は別とし、色々試みることも楽しいものです。

盛夏の疲れの出やすい時節と
なりました。夏風邪などを

召されていませんか暑さも
今が峠です。ご自愛のほど

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新人から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月かわります。

■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〔大意〕青いわか苔は

古文の篆書を留めるようであり、緑の残葉は篆書の八体の一なる虫書をあらわしているようである。

初出品の方へ

支部名・会員番号・

姓名・毛筆漢字成績

を、作品左下に必ず

お書き下さい。

新入から1級まで(行書)

清水翠芳書

三伏啓
炎陽

さんぷくえんようをひらく
三伏啓炎陽

〔大意〕三たびの伏日が夏の暑い時候を開いた。

〔解説〕

三 伏 啓 炎 陽

◆9月課題予告(楷書)

新月始
澄秋

準初段から師範まで

須田一葉 臨

之者莫測其際

之者莫測其際

之者莫測其際

〔解説〕

〔出典〕 集字聖教序（六七二）

〔筆者〕 王羲之法書より集字

〔読み〕 之を（履む）者も、其の際を測る莫し

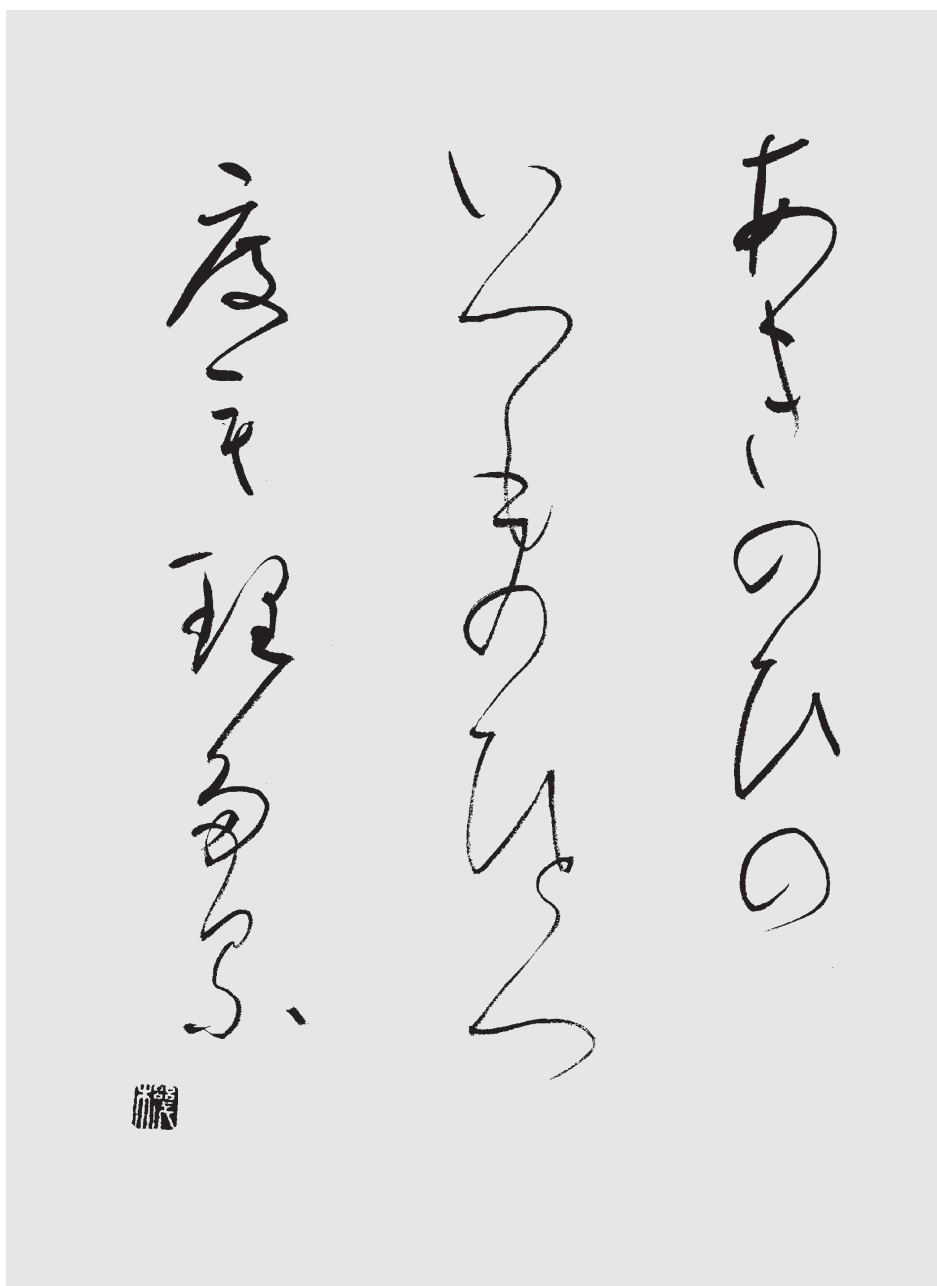
之者莫測其際

◆9月課題予告
※文献によって字体が異なる場合があります。

情性所至
天衣無縫

新入から1級まで

浅井機山先生書



秋の灯のいつものひとつと
もりたる

木下夕爾

〔句意〕

いつものように決まった時刻、一つの灯
がともる。その親しんでいる灯を見ると
心が安らぐのである。一燈に寄せた親し
みに孤愁が添う句。

〔古筆参考〕

度と

度度度度

毛も

もももも

理り

理理理理

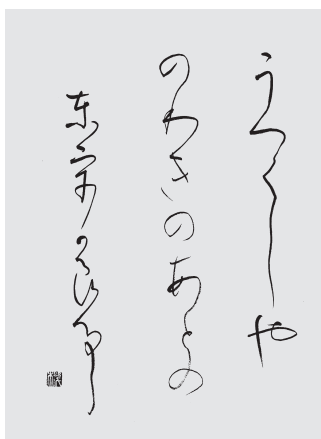
多た

多々々々

累る

累累累累

◆9月課題予告



うつくしや野分のあとのとうがらし

締切り 8月20日(必着)

準初段から師範まで

浅井機山先生書

我がやどの菊の朝露色もをし

こぼさで匂へにはの秋風

道助法親王

〔歌意〕

わが庭の菊に置いた朝露のその色も惜しい。露をこぼさないで吹けよ、庭の秋風よ。

〔古筆参考〕

登と

能の

越を

保_ほ

本ほ

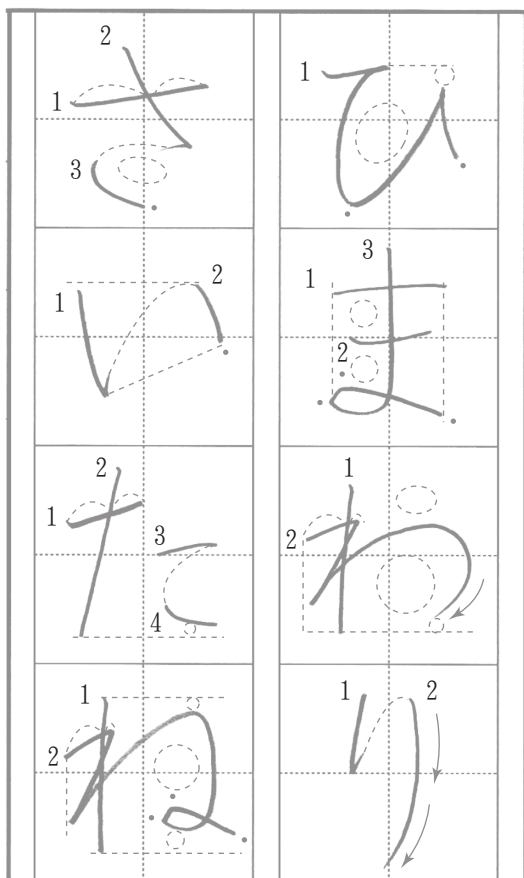
盤は

◆9月課題予告

夕月夜心もしのに白露の

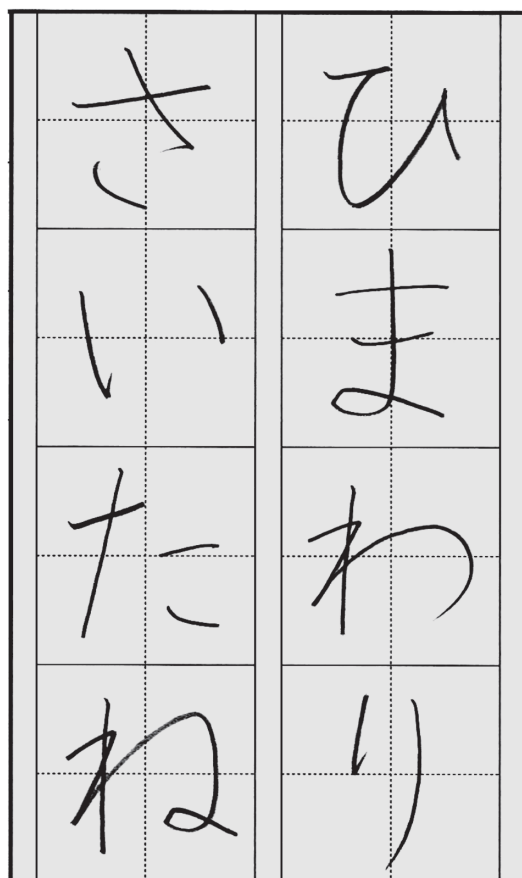
おくこの庭にはにこほろぎ鳴なくも

〈ようぐ〉自由(黒色にかきえる)



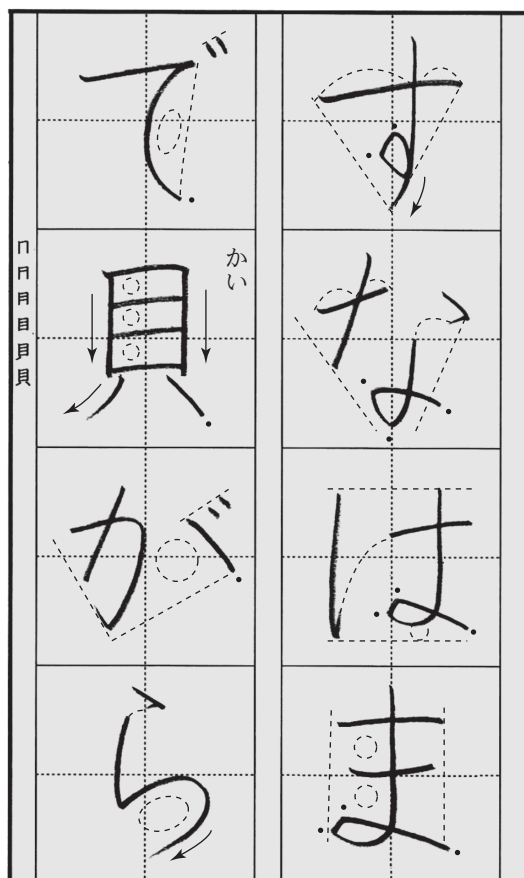
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



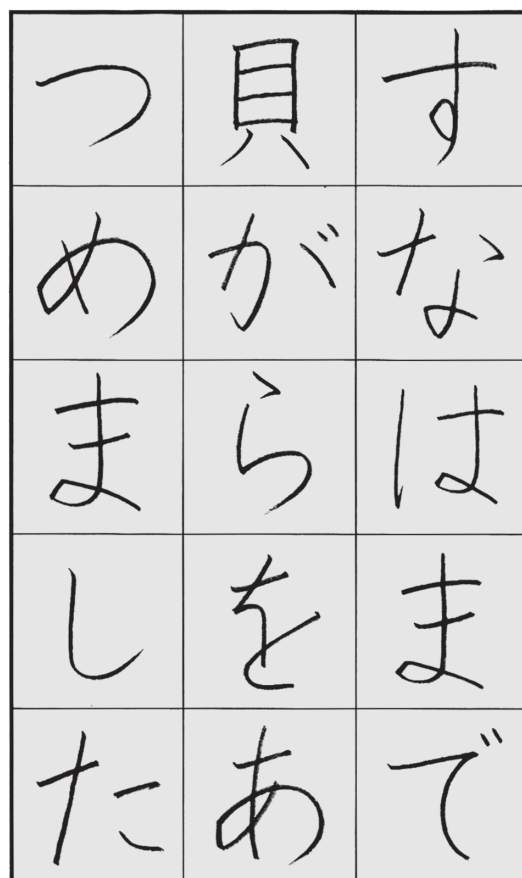
よ
う
年

幼年～小三年まで
三宅容玉書



新入～1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかぎる)

年 とし	兄 あに
上 うへ	は
で	五 いつ
す	つ

新入1級

※兄さん||単語としてこのように読みます。

年	さ	わ
が	ん	た
上	は	し
で	五	の
す	つ	兄

小二年

準初段以上

へ	四 シ
ん	角 カク
当 トウ	い
箱 ハコ	お

新入1級

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

へ	の	お
ん	四	気
当	角	に
箱	い	入
だ	お	り

小三年

準初段以上

〈用具〉自由(黒色に限る)

野	ま
菜	な
切	板
る	で

新入1級

野	板	最
菜	で	初
を	全	に
切	て	ま
る	の	な

小四年

準初段以上

小四年以上
前 堀 玉 華 書

物	祖
名	父
産	町
品	織

解説(よく見て習いましょう)

が	す	祖
名	町	父
産	は	の
品	織	く
だ	物	ら

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。

〈用具 自由(黒色に限る)〉

一 大	おお 大	エ 絵
十 声	こえ 声	ホン 本
朗	ロウ 朗	オン 恩
読	ドク 読	かえ 返

解説(よく見て習いましょう)

大	の	絵
声	恩	本
で	返	の
朗	し	つ
読	を	る

小六年

(全員)

け	大	河
花	型	原
火	の	浴
装	仕	い
置	掛	に

中二・三年 (行書)

な	の	友
お	砂	達
城	で	と
作	大	海
る	き	岸

中一年

(行書)

▼小三年以下の課題

くま がい か よ
熊 谷 佳 代 書

大 おお	ジ	イ	電 でん	夏 なつ
き	ヤ	ル	車 しゃ	休 やす
な	ン	カ	で	み
声 こえ	プ	や	水 すい	に
が	に	シ	族 ぞく	
あ		ヤ	館 かん	
が		チ	へ	
る		の		

◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 8月20日(必着)

習っていない漢字は
ひらがなで書いてもよい。

▼小四年以上の課題

いし かわ み な よ
石 河 美奈世 書

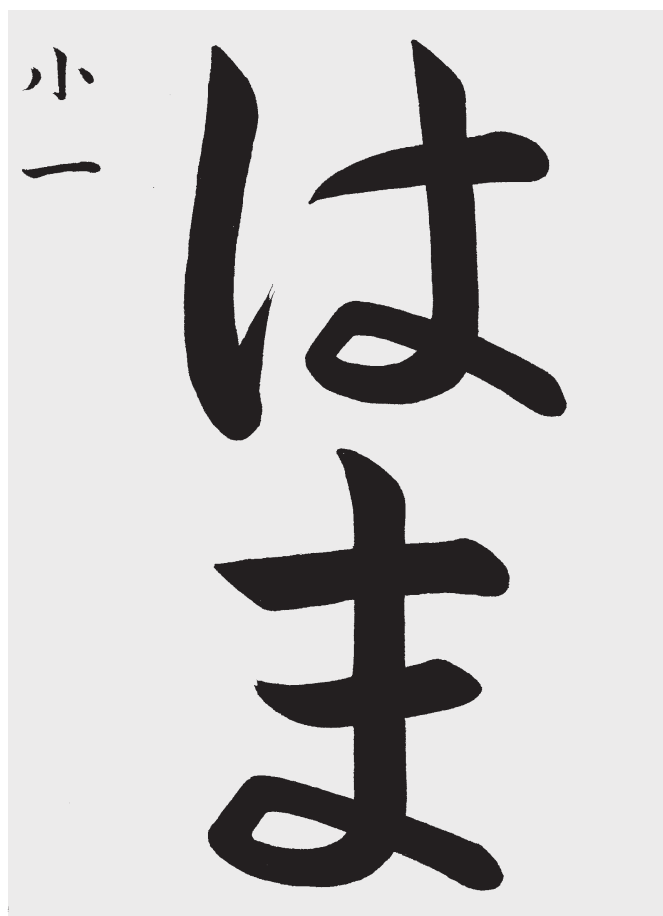
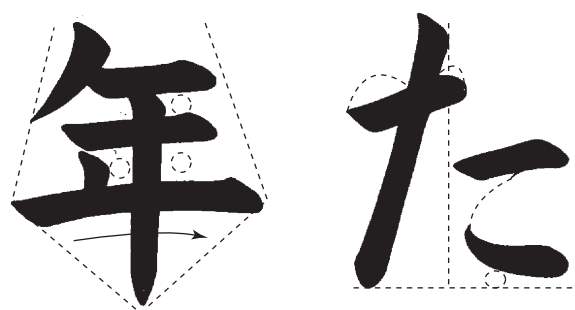
心 こころ	消 き	輝 かがや	一 いつ	夜 よ
に	え	く	瞬 しゅん	空 そら
残 のこ	て	大 たい	の	に
る	も	輪 りん	光 ひかり	咲 さ
花 はな	な	の	と	く
火 び	お	花 はな		
大 たい				
会 かい				

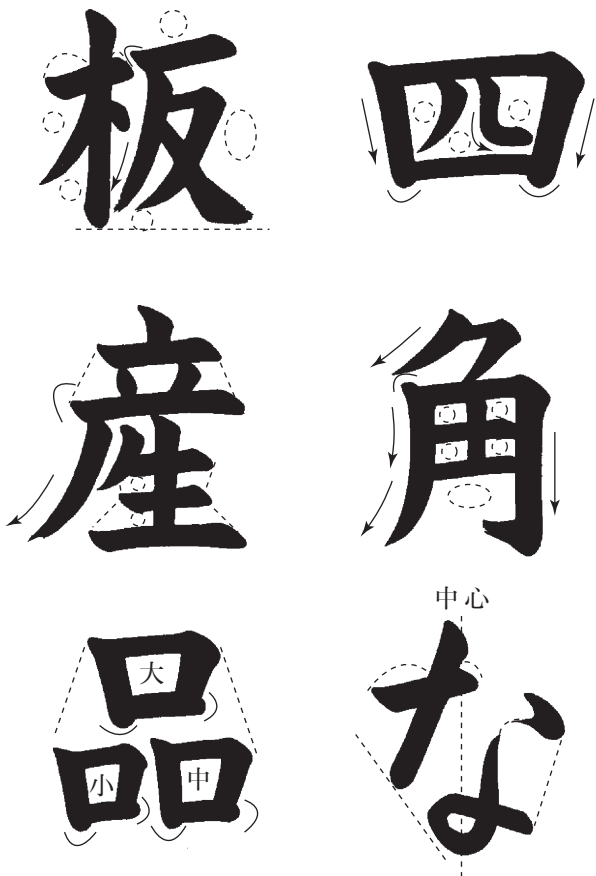
◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙(五行・四行)に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名(校名)学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。(黒色に限る)
- 一、四行用紙を使用してもよい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。







小三、小五年 柴田桃花書

中二・三

大装
型土
置

小六／中二・三年

永谷恵子書

恩
返し
し

小六

砂

恩

装

返し

置

海

※行書はリズムよく筆を運ぶことが大切です。

の海
砂岸

中一